

巻頭言：「飼育した虫を野外へ放すのはよいことか？」

日本鱗翅学会理事 田下昌志

先日の信濃毎日新聞朝刊に長野市の河川堤防で大陸原産のホソオチョウが舞っているという記事が掲載された。ホソオチョウはもともと日本にはいなかった虫で1970年頃東京都や山梨県で見つかり、その後、各地に広がった。これらの分布拡大は、種に移動性がないとされていることからすべてチョウ愛好者らによる放蝶だと言われている。チョウの愛好者からすれば、飼育して育てたチョウを殺すのではなく、野外に放し舞っている姿を見たいという気持ちも私としてはよくわかるのではあるが・・・。



長野市で発生したホソオチョウ

だが、生態系は、長い年月の間に築き上げられてきており、元々いなかった種を放すことは、他の競合種の生存を脅かすなど、私たちが気づかないところで様々な影響が出ることが懸念される。私が最近調べている希少種のミヤマシジミでは、生息地に帰化植物（これも持ち込まれた種）が入り込んだために、この帰化植物に産卵してしまいミヤマシジミの生存率が低下する結果を招いてしまっている。また、同じ種とされていても、地域が異なると異なる形質が分化している可能性があり、よその地域の個体を放すことは個体群を混ぜてしまうことになるからこれもまた問題である。

そのような中で、飯山市で発見されたオオルリシジミを、他の地域に増殖を兼ねて放すことはよいかどうか議論されている。確かに、放す場所は自然に分散していくほど十分に近い場所か、放そうとする場所に本当にオオルリシジミはいないのか、いないとしたら何故元々生息できなかったのか、そもそも本当に定着するのか等・・・、様々な意見があるように思う。だが、せっかく増殖した個体を放すことができず、みすみす飼育下で死なせてしまうのはどうであろうか？ 元々の生息地に返すのも、飼育個体群の形質が変化していることや既生息地での生息許容数を考えると問題がある。

私は、ほとんど絶滅に近い状況にまで個体数が減少してしまったのであるなら、生息地の拡大を目指してそろそろ増殖個体を放蝶することを真剣に考える時期にきていると思っている。もともと著しく減少している虫は、草刈り等人の手をかりないと生存できない種が多いと思う。

この点で、熱意と関心のある方々がしっかりと見守り、人の手の加えられ方が調整できるのであれば、新たな地で増殖できる可能性はあると思う。さらに、地域発展のいい材料となり、多くの住民のみなさんの目に触れられるようになれば、自然の保全活動の輪が限られた少数の人の手から、多くの住民のみなさんへと広がっていくのではなかろうか。絶滅危惧種の未来や地域の発展を考えて、自信をもって放すことを考えてみてはいかがでしょうか。

・オオルリシジミ・親子観察会

6月17日(日)及び6月24日(日)の2回、市内のオオルリシジミ生息地で「北信濃オオルリシジミ・親子観察会」を開催しました。

今回の観察会は、当会と長野県NPOセンターと日本NPOセンターの共催で、(株)損保ジャパンの協賛による「SAVE JAPANプロジェクト」の一環として実施しました。

当会事務局から概況説明の後、生息地を周回して、オオルリシジミの記録観察を行いました。

参加者のオオルリシジミ観察頭数は、6月17日が4～9頭、24日が1～6頭で、両日も天候に恵まれ、参加された全ての方が、オオルリシジミを確認することができました。

そのほか、生息地で見られた蝶類についても記録し、今後の動向を見ながら保全活動に役立てたいと思います。



オオルリシジミを写真撮影(6/17)



参加者のザックに止まる (6/17)



観察会参加者集合写真 (6/17)



少女の持つ花に・・・ (6/24)



観察会参加者集合写真 (6/24)

観察会終了後、参加いただいた方々にアンケートを行いました。「里山の大切さを実感しました。」や、「飯山の自然をもっと感じることを教えてもらい、子どもの将来につなげていきたい。」など御意見をいただきました。今後の会の活動を進める上での参考にさせていただきます。

・ 本年のオオルリシジミの発生状況について

今年は残雪が多かったため、例年よりもオオルリシジミの発生は遅れ、確実なものは6月10日の2頭が初発確認になりました。その後、6月16日には10頭以上を観察（花崎会員）、6月23日には卵や幼虫が見られるようになりました。成虫は7月1日まで確認していますが、今年は小さいものが多かったようで、飛翔個体の中には、ルリシジミと見間違えるものも見られました。かなり発生が少なかった一昨年よりも、個体数は幾分、持ち直した感がありますが、発生が多かった2007年（40頭以上観察）以前の状況に戻せるよう検討を進めたいと思います。

なお、本年も粘着トラップによる天敵卵寄生蜂・メアカタマゴバチの調査を実施しましたが発生は少ない状況で、当地ではオオルリシジミの減少要因になっていないと思われます。



・ オオルリシジミの保全活動について

※ パトロール活動

今年も地元西山地区の方々にパトロールをお願いしましたが、残念ながら県外ナンバー車の不審者情報も寄せられました（6月6日）。このような状況で、地元会員の三井さんには成虫発生調査を兼ね、度々現地に赴かれご苦労いただきました。

パトロールの他には県自然保護課の御配慮で、長野県生物多様性保全活動協働事業により導入された監視カメラを設置しました（写真右）。このカメラは内蔵されたセンサーで動くものを感知し、自動的に撮影が行われるので、違法採集の抑止に効果的と思われます。



※ 環境整備活動

6月10日、会員向け観察会を兼ね、看板設置と観察順路を主とした草刈り作業を行いました。

その後も適宜、草刈りを行いました。モニタリングコース確保のためにも、定期的な作業は必要と思われます。また、生息地内ではカラマツやアカマツが目立つ箇所もあり、秋季には灌木伐採作業を行いたいと思います。

※ 保護増殖活動

本会保護増殖部会の田下さんがオオルリシジミ飯山系統の飼育維持を行っています。累代飼育は本年で7世代目となり、系統内の血縁が濃くなって近交弱勢が進んだためか、産卵やふ化の不良が見られるようになりました。

現状、飼育はかなり苦戦、系統断絶のおそれもあり、新しい血を入れて系統の強勢を図るため、県の許可を得て、野外個体の確保、飼育系統との交配を行うようにしました。

方法は発生が少ない成虫の確保は見合わせ、現地のクララの産卵穂に網掛けし、自然状態での幼虫の放飼育により蛹を確保（5個体）することとしました。

7月1日から、会員の清水さん、花崎さん、三井さんとともに当地で網掛け作業を行い（写真上左）、定期的に観察を行いながら、7月22日に蛹を回収しました（写真上右）。

来年、成虫羽化後、確保した野外個体と累代飼育個体とで交配する予定で、食草のクララの増殖とあわせ、周辺への生息域拡大を検討したいと思います。



・飯山市生物多様性保全計画の策定について

本会では、飯山市で進めている「生物多様性保全計画策定事業」に協力しているところですが、その一環として、本年3月に「信州いいやま・自然観察ガイド」が発行されました。是非知ってもらいたい飯山の自然について、写真を交えて解説していますので、会の活動にも活用できればと考えています。

また、飯山市では、第二次環境基本計画の中で、生物多様性の保全と、環境教育の推進を目標に掲げており、これに沿う形で「生物多様性保全計画」の策定を進める考えです。

今年度も本会の井田会長始めとする関係者で定期的に策定委員会を開催していますが、飯山市の各地区の自然をわかりやすく特徴化し、その保全活用についての具体的な取り組み計画を目標化し、市民の方々が主体的に行動していただけるよう検討しながらまとめる予定です。



・当会ホームページの開設

本年は「SAVE JAPAN プロジェクト」の助成を受け、観察会や環境整備など各種活動に役立てられていますが、助成金を利用して会のホームページ（HP）の開設に向けて準備を進めています。HPのデザイン構成などはほぼ完成し、トップページタイトルは「neake（根開け）」とし、北信州の春の雪解けをイメージしました。また、「北信濃里山通信」としてブログが組み込まれています。HPにより活動行事のお知らせや会員相互の情報交換につながれば・・・と思います。

・黒岩山保全活動について

毎年恒例となっている黒岩山自然観察会「かえるの学校」を6月23日に実施しました。初夏のブナ林を散策し、ギフチョウの幼虫が見られたほか、池ではクロサンショウウオの卵塊や幼生、メススジゲンゴロウなどを観察しました

その後、黒岩山保全協議会では6月24日、7月22日、8月26日に森林整備を実施し、ヒメギフチョウの食草・ウスバサイシン移植や観察調査のための歩道確保も行われています。

9月22日は、都会から森林整備ボランティアを募集して、協働作業を行うワーキングホリデーが企画されています。関心のある方は事務局にお問い合わせください。

編集後記

事務局

本年のオオルリシジミ・成虫～幼虫の保全活動は、増殖や生息地拡大などの課題を残しましたが、親子観察会も好評を得て、シーズンが終わりました。

暑い夏が過ぎ・・・秋を迎える頃になってしまい、ようやく本紙の発行にこぎつけました。遅れたことをお詫びします・・・。

先日、環境省から改訂レッドリスト（絶滅危惧種一覧）が公表されましたが、長野県版でもリスト改訂に向けて委員会を立ち上げ、調査が進められています。県では県民参画型の改訂を施策としていますので、会員の方々からも希少種の情報提供などお願いしたいと思います。

10月6日（土）10:00～15:30、県環境保全研究所飯縄庁舎（長野市）で「環境保全に取り組む市民大集合2012」が開催されます。午後の部では、「わたしたちの環境保全活動」として、当会から事務局が事例発表を行います。・・・会員の方々にも御参加いただければと思います。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会	会長 井田秀行
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1436-1	
	飯山市公民館内
TEL：0269-62-3342	FAX：0269-62-5940
E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp	
編集者・事務局長：福本匡志	